

撮る側としての話

被写体の美しさの引き出し方、個性のを見つけ方

人を見ていくしかない

差を見いだす

肯定・否定の意味あいじゃなくて、
いろんなこととか人の差を見つけていく練習をしていく
と、
引き出し方とか見せ方はうまくなくていかもしれない
個性も魅力もそうだけど、
「この人とあの人のちがってこういうところだ
な」
という、外見も内面も、差を見い出す

本人的にはその「差」がよくないと思ってることのほうが多いかもしれない。
けど、それが他人から見た時には「素敵だよな」って思われることのほうが多々ある。

わかりやすいのは自分との差を見ていく

【質問】 差を見いだしたら、それをどうやって写真に表現すればいいですか？

それが魅力的だと感じたなら、それが魅力的にうつるようにやっていくだけ
自分のなかの「美しい」感じで撮ってあげたらいい
会話によって直接的に指摘することなく、相手に伝わるように撮ったら、相手にとっては大きな収穫になるかもね
難しいけどね

直接的に気づいてもらう働きかけをするより、
「どう在りたいか」にいろいろ気づいてもらうように働きかけのほうがわかりやすいしやりやすいかもね

これからどうしていきたいのか、それに対して今どう動いてるのか、ていうところに踏み込む撮影体験なのであれば、ふみこめばいい

いやな表情があるなら、バツじゃないよと話してあげたり
なんでバツと思うのか聞いて寄り添ったり
なんで可愛いのかを力説してあげたりもいいかもね

なんとなくバツをつけてる人がおおいのかもしれない
昔の経験から思いやすいから

うん
よいものだと思ってたらね
自然にでる仕草のほうが軽やか
うきうきしちゃってる私、るんるんしちゃってる私を見せちゃってもいい
心からあふれでちゃうものにマルをつけてあげる
恥ずかしいだろうけど「やってみましょう」みたいなね

自分が思ってる動き方、仕草、表情とかっていうものが
私の思ってる私のそれと、他人の思ってるものと一致することは結構すくない

「私が思ってる私がすべてではない」
はしゃいでもいいのかもしれないし
「そんな歳なのにそんなことやっちゃうの」とかもあるかもだけど
「いいじゃん」

自分の思ってる見え方とちがってるからこそ、
もっと表現してみるってことにOKだしてあげてもいいのかもしれない
それが垢抜けとか進化とかってフィードバックにつながるのかもしれない

自分のなかで「なにが美しいか」を言語化する

美しいな、かわいいな、きれいだな、素敵だな、
とを感じるセンサーをみがいておく

センサーの磨きかた

自分で行動して、外の世界とふれあっていく

自分の家や部屋のなかでなにか見つけようとしても難しい

美しいとおもうものに触れていくことはもちろん大事

写真集を見るなど

電子媒体より紙とか、実際に自分の目で見たとかのほうが、刺激は受けやすいかな

インスタとかネット媒体もいいんだけど

小さい画面であまりみすぎない
大きい画面で見るほうが
そのもののよさ、魅力、個性というのは感じやすい

きれいになってないのに、綺麗になったときのことを考えて、
綺麗になるのを放棄してる人もいる。

なっていない未来のことをいろいろ考えて動き出さない人が多い。
「なってるから考えたらいいんじゃない？」
と伝える

きれいだなとか、素敵だなと思ったら「素敵です」ということ

【質問】 「素敵」と伝えてもお世辞と思われてしまう

思わせておけばいいんじゃないか？
カメラマンは、基本「かわいい」と思った瞬間にしかシャッター切れないんだよね
だから「ひねくれてるね」って言ってもいいかもね笑

撮影のときじゃなくて、撮影の前に言ってもいいかもしれない。
「撮影のときは思ったことしか言わないので、お世辞と思うかもしれないけど、そのまま受けとめてくださいね」
当日より前の日。
当日朝だと、フリだと思われるかもしれない。

お世辞かんがえてる余裕ない
光みて立ち位置みてシャッタースピードみて、心の距離感やリアルな距離感をどうやって詰めるのかってしてるとそんなに余裕ない。
あるけど笑

在り方としては、より素直に伝えることしかできない
カメラマンとしてっていうより人として

それを受け入れないのも、
受け入れていくのもその人次第

どの世界を採用するかはその人次第

ずっと素敵ですなんて言ってるよりも、
「こそぞ」ってところで言ったほうがいいかもしれないけどね

ただの撮影体験なのか、
なにかのきっかけとしての撮影体験なのか

プロフのため？
撮影体験というエンターテインメントの体験のため？
人生を変えるきっかけにするため？

をお客様側に聞いてみるのもありだし
「こういうふうになるといいなあと、カメラマンとして思ってます」
という意気込みをカメラマンとして伝えるのもいい

そうすることによって相手の捉え方が変わるかもしれない

ただ楽しもうなのか
意気込んで撮ろうと思ってるのか
相手の話を聞いて距離感を見つつ伝えていってもいい

「もっと綺麗になれるかもしれない」って気配を
一回の撮影のなかで感じてもらうためにいろいろ動いていくことが大事

相手も思ってる個性、自分自身というもの
「私自身が私にたいしてバツをつけていること」でも、
それがマルなんだよ
って教えられるのがカメラマン

「私はその表情すぎじゃない、きらい」
それを見てる側としてすごく微笑ましく素敵だと見えてるよ
と伝えるのが大事だし、
受け入れてもらえないかもだけど、伝えてみる
「それでもマルなんだよ」と伝えていく

どう撮るかより、
カメラマンとしての自分の目から見て「気づいていく」というのが大事

自分が見て「きれい」「素敵」と気づいたときに伝えていく
具体的に伝えていくと、その人のなかの価値観がうごいていきやすい

そこにどれだけ気づいていけるかどうか、
カメラマンの魅力の一部になってく
その人を選ぶ理由になっていく

撮影した直後と、1週間後に思うこと、1ヶ月後で、
思うことって変わるんですよ

あらためて振り返ってみてどう思うかを聞いてあげることも
その人の視点をふやすことになるだろうし

その写真をみて、じゃあこれからはどうしていきたいですか？
て聞いてあげるのも、次の撮影の依頼につながるかもしれないしね

「写真自体もそうだし、撮影を受けるまえ、撮影中、撮影後も
自分の頭のなかで考えることも、心も動いていくのもあるんだよ」
と伝えていくのもカメラマンとしての役割かも

ビジネス的いうなら
撮影する体験の、次のきっかけを何かしらなげかけてあげる
リピートする意味、理由を伝えてあげる
待ってたら来ない